

## 耳には聞こえない「音楽の最も美しい部分」 それこそ、このCDが伝えてくれるもの。。。。

その人生が日韓共同制作で映画にもなり、各国で大きな感銘を与えている韓国のテノール歌手ベー・チェチョルは、欧州オペラ界の頂点に手が届こうとした直前に甲状腺がんに侵され、声帯と横隔膜の神経を切断した。歌手としてこれほど過酷な運命を与えられた人はいらるだろうか。しかし彼はいま、それを乗り越えた「奇跡の歌声」で、彼にしか歌えない音楽を私たちに届けてくれている。そしてこの数年多くの方から熱烈なリクエストを頂いていた彼のオリジナル曲が、数々の思いのバトンタッチを経て遂にここに生まれた。

2013年初来日の時からベー・チェチョルと共に歩かせて頂き、その過程で私は宝のような気付きを頂いた。「音楽の一番美しい部分は、耳には聞こえない」ということだ。そしてそれに触れたとき人は、純粋な愛に満たされ、本来の、無垢な、まるで幼子のような自分に戻る…。目に見えずとも、確かに存在する愛や友情、祈りのように、それは一種の周波数のようなものなのかもしれない。その「音楽の一番美しい部分」が、聴いて下さる方に届くことを願いつつ、このCDを世に送り出したい。

ヴォイス・ファクトリー株式会社

代表取締役 音楽プロデューサー 輪嶋東太郎



### ベー・チェチョル 裴宰徹

ソウルの漢陽(ハニャン)大学を卒業後、イタリアのヴェルディ音楽院を修了。直ちにヨーロッパ各地の声乐コンクールに優勝を重ねデビュー。

ハンガリー国立歌劇場、ビルバオ、トリノ市立歌劇場、パルマ市立歌劇場、マドリッド・オペラハウス、デュッセルドルフ・ライン歌劇場、サヴォリンナ・オペラフェスティバルなどでトスカ(カヴァラドッシ)、ボエーム(ロドルフォ)、蝶々夫人(ピンカートン)、ルチア(エドガルド)、リゴレット(マントヴァ公爵)、トロヴァトーレ(マンリーコ)、マクベス(マクダフ)、ファウストなどを歌って、本場各地でも大きな成功を収める。

「アジアのオペラ史上最高のテノール」と称されながら、ヨーロッパの歌劇場で活躍中の2005年、甲状腺ガンに襲われその摘出手術の際、声帯と横隔膜の両神経を切断。歌声に加え、右側の肺の機能を失うが、多くの日本のファンの支援のもと、京都大学一色信彦名誉教授による声帯機能回復手術を受ける。厳しいリハビリの日々を送る姿が日韓両国でのドキュメンタリー番組(NHK「BSハイビジョン特集」「プレミアム10」、「KBSスペシャル」他)や報道を通じ多くの共感を呼んだ。

2008年前半より教会などで演奏を再開。12月にはCD「輝く日を仰ぐとき」の録音と同時に奇跡ともいえる舞台復帰を果たした。

2009年9月、初の自伝出版「奇跡の歌」を新刊発売。10月には自伝出版記念・全国リサイタルツアーを全国5箇所にて開催し、絶賛を繰り返す。

フジテレビ「とくダネ!」や「奇跡体験!アンビリバボー」に出演、またクラシックCDチャート1位を獲得するなど、苦難を超え、人々の魂の奥に響く歌声に日韓両国で感動が広がっている。

彼の歌声は、唯一動く左側の声帯が、中央で静止している右側の声帯に触れて発せられるもので、片側のみの声帯で歌っている世界でただ一人の声楽家である。

### 花にねむれ

詞:(原案)たいらじょう (作)輪嶋東太郎 / 曲:シン・サンウ

星々が輝く	限りなき海	恐れずとも	進み行こう
慰め癒す光	妙なる大地	この定めを	委ねながら
何も言わずに照らす	命の全て	迷いは今	
傷つく心 包むように	空の下(もと)で	花にねむれ	
何故にまだ繰り返す	群れ惑いつつ 共にうたう	花にねむれ	
望まぬ涙流れる	迷いは今 花にねむれ	花にねむれ	
暗い闇の向こうから	絶望の夜 孤独の朝も		
語りかける 愛の恵み	この身を包む 神の恵み		
	消え去りし夢 去りゆく人よ		
	私の胸で 永久(とわ)にねむれ		

### 愛のうた

詞・曲:日野原重明

我ら	いまここに	心を合わせ
善き技(わざ)のために		
この時を過ごさん		
愛の手を求め	その声に応えて	
いとしみの心	人々に送らん	
我ら	いまここに	力を合わせ
報いを望ま	奉仕にぞ	生きなん
捧げる喜び	心にぞ	溢る
愛するあなたに	愛をば	送らん
愛をば	送らん	